

教科	国語	科	科目	現代の国語	学年	第 1 学年	系列 コース	共通
単位数	2	単位	教科書	高等学校 現代の国語(第一学習社)				
副教材	「新国語便覧」(大修館書店) 「ちくま評論入門」(筑摩書房)							

1. 学習の到達目標

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を有している。

3. 学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学期	4月	1	中村桂子 「『生きもの』として生きる」	・随想的な評論の読み方を習得する。 ・「生きもの」としての感覚を出発点として生き方への転換が必要だという筆者の主張に触れさせる。
		2		
		3		
		4		
	5月	5	山崎正和 「水の東西」	・二項対立的な評論の読解方法を習得する。 ・西洋文化と対比された、日本文化の特徴について理解を深める。 ・幅広く柔軟な思考力を養う。
		6		
		7		
		8		
	6月	9	芥川龍之介 「羅生門」	・小説に描かれた登場人物・情景・心情などを、表現に即して読み取り、人間存在や善悪の価値観について考えを深める。
		10		
		11		
		12		
	7月	13	鈴木孝夫 「ものことば」	・ことばと人間の関係について興味を持つ。 ・人間にとってことばとはどういうものかについて、理解を深める。
		14		
		15		
		16		
2 学期	8月	17	港千尋 「無彩の色」	・ネズミ色のイメージをマイナスからプラスに転じる論展開と、筆者が論拠としてあげる事例を把握する。
		18		
		19		
		20		
	9月	21	内田 樹 「フェアな競争」	・評論の読解方法を習得させる。 ・筆者が自説を述べるための論の進め方を捉えさせる。 ・「社会的共通資本」と「フェアな競争」の関係を押さえさせる。
		22		
		23		
		24		
	10月	25	夏目漱石 「夢十夜」	・夢幻的な雰囲気のある文章を読み味わう。 ・近代の代表的な小説家の作品を読んで、短編小説についての理解を深め、小説のおもしろさを味わう。
		26		
		27		
		28		
	11月	29	池内了 「『文化』としての科学」	・文章を正しく理解するための語彙力を養うとともに、具体例や背景を自ら補いながら文章を具体的に理解する能力を養う。 ・主題を自らに引き付けて考える。
		30		
		31		
		32		
12月	33	言語活動 「自校の生徒の生活実態を調査する」	・相手と目的に応じた報告文のあり方を理解する。 ・目的に沿った調査の方法を理解し、実践する。	
	34			
	35			
	36			
3 学期	1月	37	志賀直哉 「城の崎にて」	・小説の読解方法を習得する。 ・近代の代表的な小説を読んで、小説についての理解を深め、そのおもしろさを味わう。 ・生物の生と死について認識を深める。
		38		
		39		
		40		
	2月	41	原研哉 「デザインの本意」	・例を的確に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。 ・個人の行動を合理化する心理的メカニズムを、社会心理学の立場から捉える。
		42		
		43		
		44		
	3月	45	言語活動 地域の魅力を紹介する	・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を学ぶ。
		46		
		47		
		48		

4. 評価の方法

総合的に定期考査の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、各評価の観点（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。